鹽腸典底抄

特別
へ12
1077
32

宮城縣立圖書館

利
1077
31 37

へ12
1077
32

真木柱

卅七歳　太政大臣

十月ニ右大将依并君蝶ハ見参西村姫君事

三日夜御消息ニ為源氏君御ハ御事

十一月ニ侍所女房ニ内侍上御方事

大将前ニ時源氏君渡内侍上御許物

語ハ事

ニ侍上ニ有入内間事

大将宅へ頂物氣事或ハ又ハ女ニ付
相断者毎度也
又ハ欲事移大将宅お我ハ事
大将与小方物語ハ
大将欲出尚侍許し時小方然ハ失取事
翌朝大将送文お尚侍許源光夜不参
子細事
本工者与大将者贈答事
大将出尚侍許事

大将還故里見女者達事
式ノ卿宮渡大将小方事如者出奇拵ニ
本相事
同宮小方恋源氏事
大将年式ノ卿文根中ハ
大将侍男者十歳八月還京事

卅八月 同

三月尚侍宅門事 朱雀殿東面馬曹司
男踏歌事

大将後職曹司之時兵部之讀奉勅自為之由事 尚侍曹司事

其夜主上渡給 尚侍曹司事

尚侍退出事

主上之御消息 尚侍申返事 給事

二月六条院渡 消息お尚侍事 有返事

源氏君弾琴 琴風伝 給事

三月渡西対見山吹花事

鴨子送尚侍許事

大将書送歌事

十一月尚侍生男子事

柏木以中将常参尚侍許事

をしの君振舞事

詞云秋の野の草のしげみ虫なれ

なを姿をしらでなきわぶ

かけろう

私云同ものの
ありの事
相とる人事
この歌よ
てけるる
まもる

真本相　或抜相　元以歌為真名秘

何
春名今そこて宮うれぬるもかれうる事の
相ハ見れをとすする
元
源氏物七巻の月うあ宮う所八
歳の秋まて八事ハ山ちうそうう又豊
の並也

寄
源物七八巻の事ハ名ちり的年林よりもう
但十月乃初ちり山事ハ始り玉鬘紫舞之
の宮ち成ち元みえうり

秘

源氏七ノ十月廿八の枝葉の事

紙末ハ十一月ハいと世ちきこと

いとこの出来あれ十月ハその事ハ

図

奇ハ世ハ

なまきこらし

此表の末にいりてあんする世表ハ源氏サイ歳の十一月

ものとりもち玉鬘男子誕生のゝ十一月ゝ

さて玉鬘姉の夕もものゝ迎ひ君のとゝ

ハあるしとかたいそ〳〵おける殿ゝりされ

うりゝおうふあうゝん〳〵ゝまゝ世ハ夕〳〵れ

とあるゝ〳〵ゝすゝそゝるハ立ゝ

ゝと今ゝ〳〵出るゝ十月ゝ男子

ゝゝゝゝゝゝあふゝゝ出る世ハ夕〳〵

ていゝんやゝ十一月ゝ世ハ奥ニ住ハ

ゝゝゝきこう先さむゝもかゝゝゝ

ゝ出ゝゝ鬘黒ハ大将を弁ハゝゝゝ

心ちをしてお玉鬱若はみちよりしためく
ふ事と尚侍もいと心ぐるしう思ひて
もあさうかに所事のあまたは四月ばかり
めしてハ此ごろあしもとまれハ三ちの人
りとさしとなりてはてゝ
ひとりとさいさあさこゝろ入ものと源氏若
も内ちにもまうしあつかふ事かれハあるし
みいたれ月日とハ物かりうしこゝ
こめすれの所ともしてハまうまさ

事多ほ(ー)かやりのうれさ海ぬ所ぬ
うしこゝろ
源氏ハ
松
玉かつら鬱若ハ
しうりなるみ
三ちの人り
源氏の公事と世界(ゑろ)ゑ
ゑ松ハ多ぬ所(ちうさ)
いさあ所と

事代
図月

須門陳ル之

所を云て

舞是其仏之

[illegible]

大和の国之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

舞是其仏之

[illegible]

[illegible]

大将の仏は人を自然無[illegible]

[illegible]

[illegible]山のかたをも

石山寺在近江国瀬多南一流聖武天

皇御字金龍鳥仙人建立し勅願国家

[illegible]仏[illegible]

山寺と云家にまうでゝ八幡をはいし奉
らんとおもひたちてまうでんとて
石山の観音を仏しゝ菩薩とおがみ
こゝろ事むさうの事ゝ申ゝ
ぬ舞ゝ大石の石山の観音をまうで
を祈ゝ申へうのうへ

女房ぬゝうのもの
むさうゝ申ゝらんとて

ゝ申ゝ
むさうゝの弁ゝ
ゝらんとて
とゝ申ゝ 同日

きゝ
多日年紀幾多日
むさうゝ申ゝ
申あさ人ゝ

心あるさま人とハ舞男大将の事をいふ
いろりうさまてひさまりむしたたね
きこしめすまあんとみ給ひ物ハあさ
ねたいをうふ給人をハ正五位て
御沐のうけ給人ハ五位て
を心ゆくしいり武士ハ事ハ人も
おひうえうあり但沈ゆたあ
らそれをんかしてなり
石山寺ハ御の論ハもなくしあるうを
舞男のたれ方のおけを引ハ
成ハ生ハ成ハ事を合せハ成
ハ方ハ物ハ事ハよ
あるせてハ
ひすくらかハ
河海云あさんとハ舞男をいふ
義ありこれと西ハ人ハ舞男乃
ハ屋の如ハ
其ハ物ハ

[illegible]と[illegible]とは[illegible]舞の事を[illegible]
[illegible]ばよりの成就すると[illegible]は[illegible]
きく[illegible]なり[illegible]利生[illegible]やうなることは
時は[illegible]人とは[illegible]とをいつては[illegible]
義[illegible]心あさきとは手のはりと事とは
人御[illegible]なりひさう高名して石山の
利生をあらくらし[illegible]
私云此[illegible]は義の三光自筆にて肖
書こうり

私云業[illegible]は三義の内[illegible]は河海
の義[illegible]心[illegible]とすると
以[illegible]は源の事[illegible]
乃[illegible]舞[illegible]とは[illegible]源
[illegible]舞[illegible]を[illegible]いと[illegible]
可[illegible]のうち[illegible]又事[illegible]
[illegible][illegible]不慶[illegible]

おとゝしゆゝす

右ちゐの少方ゟ出あれ[秘]ゝかもの長

ゟ出もの字ハ源しもゝ[秘]ゝ出ことゝてた

なりさとゝ

いとひろさとゝ[秘]みまて

矢[秘]又ゝはゆゝ

私云いとひろさ事とハ弁のゝ[秘]

今ゝりみちひさ事ゝ[秘]ゝ

ゝ[秘]ゝ事ゝ[秘]ゝ

人のゝ[秘]ゝ

ゝ[秘]ゝ事ゝ[秘]ゝ

ゝ[秘]ゝ

きゝゝ[秘]ゝ

儀式　家之二

大将の出入の儀式[秘]ゝ事ゝ源

[illegible]

秘 大和のもろ〻の方〻

[illegible]

秘 いまゝゝ中の方もまもりませと

[illegible]

いにしへゝ中の方おはすれハ山もとうた

まひ事をいゝてゝ源のもろ〻を我

方ゝ[illegible]をさ給へとのゝるまを

[illegible]

[illegible]

河 平日中紀坊論詰場同註

[illegible]

音毎ニ

秘 ちゝ[illegible]ハ

円方の門公ハうしろこゝさ文殊

りハ大和のゝ[illegible]つきたまつ事をい給

色さ事ゝ[illegible]

松云矢又四郎ハ弘徽殿女御のさう
ひ給へハ山すを公卿へひ給へ
こゝろうしろなさ
源氏君ハうしろめたくも女房なとか
ハ又公卿すきまに
のゝし
おまかのずいこう
何
図側　尚書
おまはまへ物のまへしきもこゝ
うちとかのハ側へ
もおさ公ずいハ牧場へさ一
ゝまきき文つゝの公
公さハ
弁
円左衛門を
松
ふの松ハ
きてまりて二ゝさみハいとこひ
図
円左衛門の公りハ
内前をゝかゝ

あにみてきこゆる
をいたくこみ許して以前に内々と
もたくのあるまゝにハなかこゝろハ
半分ハ一きれハ円左氏のあるよ
の詩をもとりあつめといふ

あるあるき
河渓行 ・ あるる同頃
言乃よの

一

半 ものあるものの儀或いあらせてあること
嫁娶 嫁娶の言ものあるものの儀或
きくけこゝろひて
洗儀 一柳を円左氏のつくこと
あの詩 詩をを
松 源のたいけうこゝ実半ばさうをと又
詩のきゝあるこゝめまゝ 円日
あるこゝしは詩ひ
実又円左氏の源 詩をとこゝとを

うしのひつ
山城源のむらひつ事八人一生一生か
きてさハりなく実事もあり舞ま
りゆくつる事をつくりの人のひてある
こひつ

らんかきこう先てぎり
秘
天穂ゆしん道すうま
すせうりきか

みちく清盛の
さきり、おいし
みちのれ望女清后うりて学すす
みちく
私云山条殿事ハ高侍ノ職ニなり
事ハ墨ゑ墨ゑみ長ゑ
ゑんちのり先の源うりうれ柳お
ゑまハ其ゑ文法ゑう生
こうきりく山ゑ和ゑ

文つくるなり

なけくしきハ命しきなり

こゝろはなよりなきけり海きたちぬ

わかハかりとなる命なり

命くしきとも

秘

ちりさくまりりもの時ハ寄り

文とも

なけくしきハ地のくづよりなり 聽

愛之風流うくしてもの侍るれハ

寄月あれとの作之

霜月ありあの神ちさるとさけく

十一月神事

一日信忌大伴飯　十日神祇官始信濃物

上卯日相嘗祭　賀茂斎主逗留　宗像祭

明日斎院神事　上巳日　山科祭

上申日平野春日　杜本　富麻太祭

上賀茂日松尾梅宮　　辛川當宮中宮祭
中子日大原野祭　　中丑日因幡神祭
中刀日結魂祭　　中卯日新嘗祭
今晩大殿祭　　中巳日春宮結魂祭
同日大極殿祭　　中申日石田祭
同日日蔵祭　　下卯日東三条神祭
下未日除時祭　　下寅日賀茂除時祭
同夜清神宝
神事の日之内作のうち所之内所之内

来て事をいひ合すること
神事みて尚侍の所へ曲物以下事を
事をいひ合すること尚侍ハ少しも内々さ
ぬ〳〵すす一線
内侍所みと祭りうけ侍て
内侍所の中み尚侍曲侍掌侍女嬬こ
の四等ハ官あり男月ハ女官ハ男
ハ官のうちへ事をいひ
私部

内侍所

内侍所ハ神鏡ヲおかれまする世ノ所ハ
同殿内侍坐仍主上朝夕内侍所ニ
参拝内侍所ハ天皇内宮或宗神者ニ
坐ス別殿内侍温明殿近内侍春興殿之北里
内ノ儀ハ白河院御作之内侍所神鏡飛出テ
歌上天而女官懸唐衣袖奉引留候 此
同級女官奉護ハ

入口貫所

大内裏ハ
毎日ノ如ク
ヤ内侍ノ
来ルハ
宣旨ヲ
兵衛佐ハ
秘 これも
内侍ノ
大内裏ハ
毎日ノ如ク
ヤ内侍ノ
来ルハ
宣旨ヲ
兵衛佐ハ
これも
内侍ノ

乃先生とされくかくしみくちゐを
さひきを
おこなひう
兵衛佐のぶとし我みかひさをあ事せ
妹の事とみうくしかくさひとを
たゐいを名りあてうまあ人
舞子の宮人あうまを
あうまを海
あうを海
あうをうつり迄も川と好色うせ

舞子乃海と
女とうをうに
河和鏡 鑑り
みこ風うめと
もてうして
和しあうを舞子り射て曲も
かしてもうくをうを
松
ちゐり射しいわしうを海をを
して橋姫あうきを海を作り迄

図
舞殿にうちとけぬ物と
心もてあつかぬさはいはいとさ
むろゝの心ちかたるみあひの事は
心と源はくくうくはかりきてそろ
うくしこひまとさ奥乃事も武蔵殿
らさうとをかあて源の此方つ事わと
おくの御すらん
はしきを源と
舞殿にうし心ひくやて御すんうろこ

文乃源心ゝ
むろゝを音つ美うし心ひくと
ものいとはうし
源を人のうくひしも今会けれさろ
事はあゝはまぬ〳〵ゝと
うつ事し
うし此つ事ハ源の心くせりて施
ゝとと
紫式上ものはうしうとひしうて

おし業上はうこさうひろ原事わりい
さし源のゆちあうう結すうへ

いゆさうみ人はなのくせ
源氏のうう光れくせをいけさうせ
ゑひのまへ
源の生むうう事をつよみなり
けてゑひのまうなくせしうとしとは
らみへのとハ源の我事をのまへ

源のなくせれハ今ゝて大事うへを
まてゝゝ
業口人はなのくせしハ大事をうへ
くせゝはなのくゆわうへをあくはあ張
りまうう 秘
私云はは源の事月むうよなか
ゝ事うれハしさうう事うもあを
てりもゝ事ゝ物うゝ物はなしゝ
うれるゝゝやれ業へ

京師の人々は源の幸月丸
をうらやみ給ひ給へり今
はうみ給ふ事なれども我うらやび給
ひもさてもやとい給へ人々もうらやお
んもおもひ給ふ事なれば
こびやまれもおもひ給ふ事なれば

大ねんおとせぬ
秘
源の侍生あり

女若あやしう
むかしの秘くしかくおも
はせしきうあり
すしうあり
むかしのうやまきさまといふべく
しかるべぬ八勇健なるべぬ
このもうういたに
源も前世の人みれば
きさまの

けしきさは

賀　御うやまひ

つゝみの花ひたきの鳥とかとくしき清新多図

松　とくしさ

すくようなるのつねの人

ひゝなるれたる家

山花ちるりうひて今清りはは

別のゆりえゆうさ

私云舞曲元亨釋書に云風流ゆうのこと

の人は月うつみハ一人源氏者別物

よゆへ

ひのうるはかか

ゆうのこひ

すうれさて

源の車のうとえ

ひとゆうも

むろのさかえ

らうたいらのそひとうも

懐妊の事〻〻因円

ちかうりうえんりを

源の九郎義物めてもんろうさ物をせ

私云義経物しかはかり世代未に

十一月みいしは世しきちこをさいてさ出

そもあるハ明年の事〻月物をお遠を

只世鬱の事世せかしうろ海

川ろ世そうろうゆうをいろ

ちちおや

源の九郎

世ちうをちてくしハねともそう川人のせ

そうを地そうをわしを

河内接

ひ人のうをりをてよ風川

世りうちてしもれそうまれ

世むうをちてくしハみねともハ源氏大郎

ろうの先人安事ヨさらしさうを

わたり川をてハ我こそ川をわたんと思ひ
しかハ人々瀬とハちらこそちらこそと
弁 只川の事を
一説ニ云ふ宇治川ハ三
遠川の事と
花鳥ハ世事いと源の川ふかくふかさ
しおりとも泥氏不通ゆゑ
とをきハすくなし
一説ニ宇治川ハ
川ふすの事ハおりふしとも川
三遠とハ
三遠とハ
ありかもしてとハ花ハみ所ハ定めんと
なをさらとみんのせをもとめ
もとめをもとめ又ハ川遠
ありをハ只川をもとめ
いとゝ高き三遠川ハ義未みおみを
ふるのなりや
秘 弁を思ふ

玉かつら
みつせ川わたらぬさきにいかてなほ涙のみをの
あわときえなん
河
三途川之義ハ奈川ともいへり　十王経によみ
えたり　地獄の絵にもみえたるあり
みつ川わたるみさほもなかりけりなにゝ
衣をとぬきてかく　後撰
衣裳をかけし日此哥を以思之
む
ト葉此哥ハ三途川のうはの罪人の衣
衣をとくる事也　懸衣翁脱衣婆とてし

おほくありといへり
河　水深　日本紀　水尾　万葉職
弄
此あらしうちにしぬ心なるにありたへ
しみつせ川ハ二人わたるとぬさきよ
とはせめうきおもしなぬきさきや
みつせ川わたるさにさりなりけりよ
きぬさりさきみきしなや
秘
此哥れ義あるへきれセ口そられくよ
なりあさかのの事の思ひさきなし

たゝえ又ハさきたれる元朝の事ハ
ふさきり消さゝゝ文字ハもとゝゝぬ
さゝもいとん高しとそけるゝ
図 見とりハ法宝の三塗川や

秘 心おさゝのれきゝ百やや
秘 法花初ゝ多れしも三塗川ハ必ずゝ事ゝ
かゝせくまきみち

秘 秘 五ゝ図に曰三塗河事ゝ
善道ト云説アリ也ゝ
秘 三塗川の事ゝ
何 善道ゝ云ゝ消此河三人ハ必ず三塗
道有ゝ一説道路ゝ三人必ず河
り消ゝ有ゝ図ゝ有ゝ
又云善道中ゝ真塗ゝ有ゝ
既十王経ト乃文ゝ二七七人渡奈河
受種々ノ苦ト説リ善道中ゝ戒ハ
有ゝ

御子のさきうり
武流云れ子のうりさうり河内守まんせ
ゆゑハ源氏也也舞しゆ言とそけ侍を
家和り嫁合乃男必武川子ゆとと志
れうり久ハ隠密のうにくしハうねれ
とし久も内しハ和りあり　高藤卿あんて
世りうきさ之ゆ〳〵しうきあるとゆ乃
ゆうさし　世りうゆ也ゆきしハ和りゆ

玉舞高侍通舞墨大将事

高藤女　通右大将宣四

も女の侍ゆゆうとそひてゆるゆむにり
ゆうゆ乃ゆ也し　但ゆ也ことそけうはとり
高侍備子四ゆ氏
ゆうし本例し
源氏ゆうゆの事ゆふ事ありと云河海
流ゆゆ〳〵れ遠ゆさうゆ但ゆ也ゆうし
ゆゆ〳〵〳〵さハとを花ゆて物語ゆり
〳〵ゆハ実事のゆさうりさけうは

てハ伊勢の
多くもとりハ多ひ物ゝや
秘
夫婦のかゝひとり発こう人三輪川
を引きもすそ解手おりてもまゝ婦ゝ
らひをいひらせうあみ川ゝを花
の事ハ多くきゝとゝ花してをめり
ゝをとりてしいろ色さゝ
私云秘ノ義花ノ義ニ日せ〻ゑを
一説云定家卿ハ此第ノ歌ハ第ノ
河ノ一説トハ仍器之せあてをゝ
多ひのあゝをはゝゝん河やちゝなる
多くきい義ハ々を 重之 日記 ニキ 紙をゝ
也一共ハ古花ハ三ヶ よれ河
くゝかしゝてハいゝ
ちハりきれたあり此ハ々をもゝ
りうつせのゝゝめゝをりめゝを
きしゝあゝと源氏川とハゝ
色さゝかしゝのまゝ 拾万葉集ハ

神さぶる社のあるかぎりとみえ侍りけれ
ども　こゝろのうちにさとりかしこしとい
へる歌　善道一義を以て秘義とす
私云以上河海一家の秘伝也　所詮道理
かしまて引れ道理おのずから引万葉集
シ川郡へ

中臣やにをおかしの事
弁　おかしの事ハ　をかしの事
松

図　実事ありさま事をとゝのひまうとも
むかしもとひまうりの事多くまうと心
さしの事

世ふるまさきのかつらの事　弁日
図日
ものゝこゝろをかつらの事
人うしの事

秘かくしまもりまいらせ
義日御之琴を拍子にて公とやり給ハ
ぬをたゝれもをしまをくるとて
ひとりとしをハ
私云 秘しかる
実事なるべき事 園日

むらくもの
いとをはりて
源氏別の事
うちのみまもるすゝ
源の初
かをあるさゝ
秘 皆時もてしまりの
をのあるとうまりの
秘 たゝのもの

河領

さひそあきこゑし
弄 関入事ハせんの也之
秘 源氏ハ先文つくえみ出て後りハと
もろくりしさひしと之
図 源の也ハ先入門をとしさひしと之
私云源のちし先まのお文庭りハ遠
せ奇之 源氏ハ先変流えへ出ては
涙まてしゆうきんとさひつらん 又舞之
ゆうらむもとさハさまきしみうくあかつきなら

二条のきさきハ
弄 玉かつらの又葵上の又をとして二条と申せしを
又子無不審し
又きさきの系図に二条のきさきにあるハ弘
徽殿の東后又大臣之
私云玉かつらの又内大臣の女をハさうちり
弄花二葵上の又をとして二条と申せしを呉られ

そ　あやまれり

糸常方　左ゝ沒又　山奏ゝ内左ゝ

拾政太政左ゝ

致仕太政左ゝ

葵上

玉鬘方表

二条太政大臣

弘徽殿太后

致仕相図方

四君

書之致仕太政左ゝ　山奏ゝ四君　玉鬘方又太后ハ二条の
太政左ゝの聞ゆ　二条の字を致仕
左ゝ付領を為　但若菜美ゝ源氏朧月
夜おかされてあひ又ハ時二条院なさけ
ありしを朧月夜ゆすり源ゝと
みられハ光も不審只山奏ゝ　みなさうと

こゝにきこえ沒
源のあるゝ　中の　山奏ゝ　左ゝ　内ゝ

の侍とゝ[illegible]
源のなをとゝ[illegible]
ひとゝ[illegible]

あれはこゝ[illegible]
秘 むとゝ

いとかゝ[illegible]
むとゝの[illegible]
ひとゝ[illegible]
ひとゝ[illegible]
ゝまたゝ[illegible]

たゝ[illegible]
秘 ひとゝ

かゝ[illegible]
秘 ちゝの[illegible]
ゝとゝ内侍の[illegible]
[illegible]

或 ちゝの[illegible]
源氏の[illegible]
[illegible]

九月　図月

ぬ浦の年〻
私云秘ノ義を不審〻或抄九輝人図云
義を一流〻は次ノ初ノ図〻ノ事ノ
事と申すべきぬ〻に書せ〻れ侍
てまやうてまうてさせてまうんの作ん
つさ侍〻とあり先ま〻書之ノ図云
ホノ義一流〻

秘
そ〻ん事ノ侍ノ事を
秘
事門あ〻ハ〻ま〻ん事ノ〻ま〻ん事〻
ぬあれハ〻ま〻とひ〻ノ図〻
ぬう〻〻ま〻ひ〻ノ高みを侍門
ま〻ん事を秘舞ノ義ノ弟子ぬ〻れ侍〻
それを次ノ〻わ方〻ま〻ん〻ま〻ん
と四ひ〻ノて皆時主門の事を図ぬ〻
かく三のひ〻〻ん
図
かく〻の風流侍〻ノ〻ま〻ん事ノ舞ノ義ぬ

私云源氏かくれみのの巻にはかの人さきぬるを
かしこくも乳母の人々ものかりさ
きよりはしたひ給へるやうなれ人第
の初より用ひ給へるさまやはりてある
はしたなくておはすらんとぞ思ひ給へ
られける

舞曲はすまの浦

うちすて給へりつるはしたなくひ
小方のおもはしたるちはやぶる
舞曲はすまの小方おもひやりてう久
しきをれハたりとまてとろかあ
かもまてあまこそやうなる人しれ
を今あらてくらひきを
小方かくこの歌ものもらむさぬ
大わの中きを
舞曲はすまの浦小方うしと心をとめぬ

[illegible]
[illegible]
方の腹より男子二人女子一人あるを系図に
みえたり

[illegible]
[illegible]の事心只夫あるばかりなる人
[illegible]
[illegible]
物の一[illegible]あり神心通所のるさま
一方[illegible]
人の[illegible]
[illegible]

女房人うりかたり
秘 ちゐのかたへ
さうなんしられさらせみえ
秘 先帝れ叡慮をうり
いらうかつさ
舞子のかれ女房とゑ歌とゑ文とゑかり
つさ所ひとと
ゆうたらうも
舞れ女房の子
あやまりしうれさ
何 陸しらうも
こうしうちゐに話す
数年物のをたうひ話とそ為も
ちうもうちすてもまてをおすを
うてゐうさ
おのれおうせ
清中とあくれ
舞子て女房の中へ

なんとあさく物とハ
毎日見れども中の世方と御余ハ見ぬ
実に〳〵きこゆ
さて〳〵うれしうる
むろの中かくしられもれぬ
かのうさひとさて
源氏物語むろの光り密事なき
うしそうの羽よんてこう
枕草子源氏通を数〳〵
さしあさうもしとひまと
公ぎてすぐいまひけを
公きてもさいと花鳥云入り
こハキヨメ九四一年源氏の筆の加年
とりりあん
草子ノ地うと
或ハ文さうしてて
枕或ハ文ひらを
人とて

俗ていはやうなる
人をもてなすかたく
松浦潟この河上にて家ハあまたとゝまる
しるあるハさうすのありさま　私云　玉浦や
この川上を玉浦川ハ則松浦心ゆゑ松
浦なる玉浦川とゝあり
日　仏をして身ハ
むなしくなりぬ　やうきハ病のこと
松　そうしきのあらましやきも
とゝ仏をはなれ
をのゝあんこゝろハ
松　こゝろとハ何人あるべきと
をもハあるべきといふ心
或ハ文武の好さ
いと人をもかさ海
猶毎日のうたに
かゝりもてあつ
文武ゆゑのい

或る人義朝の乳母の所へ舞を教ふ
ひとりてすなはち人をして
夢のごとくなり
舞を義朝の乳母
とハかりけり
一度ならずまりて又五月雨
雨のごとし
うちくつろいで
秘うちもの
秘こゝをとめられたる
舞を義朝乳母云
時くゝ心あやまり
秘物乃氣心或物にうちまかせ常心
うちもの大風ふるゝ
とまるものあやまり
少方ものきゆくり打ちてうち氣色

むりまいく

何

理痛

むをみうけるる

秘

たるのなしむをとうけうしハむうみすし

ものを

なみハいをあうれと

毎月三月中みの少方とあうれしハ思ひ

ものしく

けるもふの

毎月三月少方みの所ノ初

秘

ひ中月三の少方みの所初ノ人をいふ

物ハ何ものとそひのしうをしてきく

物をとく

いとうをしうをあふ

秘

少方れ方しうをあしてきのしを

えうちいそさうをと

うこうひきう

秘

たるとわうれとそひのうを

世人みな似ぬ
物のをとゝ（弄）
枕 我は法方坊主すゝさとも
枕 知れ乞とゝ
えさしもありそうきはんをさて
毎月の我は法方坊主にまて堪たゝつ
未ゝてもえさて思へも或つ
ひとうんのゝ法へもありし
はうきゝ人世をさてもは
おりしむか

枕 はかり字制禁のをこはあるをさし法をよ
しいひけるう河之　九月六日之
私云をさてハ或つ文はをさて之
れをさて法をはしはよ
とゝ未の河ゝ
ときゝ
兎ゝ角之世方をあられ男ゝ
ちさゝ人ゝのゝ
女のゝ

松
女ハたゞ忠なきさまに世れおりさ海をとも
清ゞ移人しくてきりかえし
私也別 女ハ遠色なき物なりけり 此方ハ
物のきこえおひなれハかなりけりのまつ
ないへし
ゑしたゞりたまへさしあ行
きての一途の手しとくん孫なくしおすとも
さしも年来ちぎりをきつるに我おまろせ
て今きはしめらんしくつへきま申之

文のきこうしやう
松
女もそれまで又文れ見ることしをとへなまゐらさん
は
さらやうみ
きりやうみしおり候なれ共心見候まゝ
きかしなるとしみやりあるまいとなく
て若悪しからなる称之
はま
さらやうハ 急速の仕之
私出来ておのこさハいとくて我なる称て
まいらに出りしとこさつる

はれ[illegible]ぬり川さらんと或る[illegible]
すをとゝ
[illegible]
又をこれ同郡の[illegible]みとひさらんと
おかれをとゝ
秘 うゝじを郡南こ
いと秘さけり
秘 ぬはちおのいひのみを世方ハ朝奚一
てのみとゝひ[illegible]
同 何しゆんめてい[illegible]
清[illegible]
古人 ゝ
めうの事
大和物語云[illegible]
伊勢[illegible]
のめうしめさ[illegible]
蜻蛉日記云[illegible]
日本紀云有[illegible]

もれ若中将のみやす
主若ハ大将の御方ハ御房中ハ少方よ
りぬ人と言まてたゝりひと
かたにつきて
此五人さとむらの事を指さ之と
いとをけりー
少方かたりの神之
うとをけり
銃 老毛 漢語抄 高中くみ茶くし

尋
かまくらの御の紙
少方の御我れ事りはてハあて
又文のはうとをさの
宮の御事をとうせの御れ事
はりんいとはうう者れはりうく
ーさやりをかみ
めていうみて物をひ行をとてうちを
ひさ行へらうもけり

みなれぬ物ハ必ずあれ物之
私云ハ能ハ物之ハ分ス物ハ分ス
ハ人ハ能ハ物ハ小方ハ物ハ我ヲ物ハ
きりとてのハ分ス物ハ分ス
ものハ或ハ又或ハ事ヲ之人ハ
是ハ事世ての物ハ分ス物ハ
分ス物之ハ我ハ物ハ
世人の物ハ又の事ヲ之
くり物ハ分ス物之

ハ家ハ事ハ分ス物
ハ我ハ物ハ分ス物
ハ事ハ物ハ分ス物
ハ事ハ物ハ分ス物之

物ハ分ス物
小方のハ分ス物ハ一物ハ分ス物
何細ハ分ス物
小ハ物
ハ分ス物
何あハ分ス物之

かしいとぼう所まて
ゝしいとうふ一ちゃうしいまきり
もて屋へ
ゝひゝ有為ゝ又長野海を
ゝ也をつけゝうゝみ多り
文の清事をゝくハ
大和の国
武蔵文れ事をあ
こゝらへて

小方をいひるゝむゝ
かのゝひ物ゝ
武ゝゝの方
武のゝてゝみ
武ゝゝを出人と
私云ハ六年院ゝ出ゝの位所ゝ
たの事へ
う井ゝゝくきすなゝ
舞是れゝゝ為れゝとの所ゝ也何と

やしろの前にて源氏
の人々をみるとて
心ばせ
殘りの人々もとりつゝ
ものさわ
源氏心
弁
なる位の中ハいかゝをよろすと
心ばせ
源の心ばせ
いとゆかしう人々
ゆかしう
ものもまいらでむハ
ゆかしう
侍中にて
むかしをもとゝハ中ゝてまいりたまふと
文ばかりもとりもて
式部丞ハ方々にまかり行もとれハ
まかりあかれ
舞ハ
舞すまひすること
かゝりうしろんと

[illegible]きに[illegible]かりて[illegible]

[illegible]

[illegible]みやびをとい[illegible]

人[illegible]ばつ[illegible]は

秘 やびの初

[illegible]をとる[illegible]

[illegible]

世の人[illegible]のうさを

[illegible]ひ[illegible]

又[illegible]

いつてみえしてまうんとかむ

秘 [illegible]ゆへと思人は又[illegible]御方へ[illegible]

[illegible]月[illegible]

おかたの[illegible]

秘 [illegible]

と人[illegible]

此世界はいかりとなれば
ちりぬさ海もてやしいそまろ人の
武ゐ多りハ生てまねさ海もそ世界生
ちあけうゐ海みゆ他人はさまりゐ
未の世り
他人はさまそ世界生ちして後れて逆
かゝ人のあやまち
私云親そゝ
（元）是ハ世界を変のうゝを世界
ゆひ生ゐせむゐの君を大将りあハ
せ海事を世界上のゐりさし変の位を
海ひてうゝをゆまさ
（松）むゐを大将りあハせゝてまゐ事を
世界上のゐりさしゐゆりて三ゐ海或ゐ
八ゐさみはゝ海ゝ
ゐゝみはもかゝもゝこハすや
（松）何もうゝみはゐこハゐうゝ
もてかい海さ海をみ海りゐの三人ハ

秘
[illegible]
私云 第上ハ他人ゟ出生の人さて
源の清子のうりゑひすとゝ或ハ鄉
文書つまゝ清子すかゝ遺根あるゆ
ゆまはそれ和尚ハ生れ[illegible]
[illegible]を第上のそ[illegible]
かゝみはうゝ清[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとゝうの清子を清[illegible]
[illegible]
秘
かゝの清子ハ[illegible]
[illegible]
私云 此頃第子乃地元
大[illegible]
第上
秘
大[illegible]

いつきむすめ

第上一まき

第上八まきこんれいろきむすめ

て我身をさえ人まもせるやうかゝ行

角れはまりてこんのうへまての事はゝ

もちろんゝきそこ

かゝるひやうしれうの人れうの色

舞是れもう身れ事をこ

人のれやをかく

或ゝ人をいろり 弁図

私云或ゝ人れ兎角おやけあさこを

さやうのの事第上八はれむすめあるをこ

なきこいろ

日ひとりいりめて

いひきこんこの舞是れ

くまめれハ心をそこみ

大将をうゝの法こう弁ゝ三蔵

言こさこれてゝ所をにういて

おりうき須之
このうきもきし
秘 少方の事
中くらうきて
ここつひて
ものとをもう（ゑ）ひくりまて
秘 河海りみうり
何 日本紀才七日賊有殺王之情 王謂日本武尊之 放
火燒真野王知被欺則以穴出火向燒而

得免
日本武尊東夷を征し時駿河國
にて賊徒野を燒しゝみ十東劔を草
をかりはらて向燒たりまゝ事ゝ
服多の色さ事をこゝろ
服立すり公をいとおひうみ
少方の秘之 何ものやうゝ
いさますして居ゝ也ゝ毎日立い

てかさし

かすみをもさそふ

春

なりまねし

松

結ぶも花ゆゑ入とも花さくを

わかるゝをもきをこそ

雜

雜墨ぬきあるゝぬきしとんぬ

ふもぬけぬるりや

河一ぬ[illegible]いてゝゆん白雪ぬ

ゆりあるゝ行ぬ[illegible]ふみきり

たゝの行

ゆゝ〳〵あらせゝと岩ぬよ年を

しゝかゝゝりゝゝむゝも

松

花あれしいふひあるゝきゝとみさ

ゆあ行し

かゝふみはいそゝと

松

大井の月

此宮ぬゝゝりハ井ひを〳〵ゝゝ

のゝよし

れのあけぬる

是より八文字屋へ来れのあんを
なしきさを引きせる初せ
わ心のあるくしかぬをとりて貼り
詩をうなるくんれいひきんとかき
けり

秘
源内先生

ひゑり右衛

一何ぞりみきゑもめる神ふけ是
ひたるめて れいそ移へ
仮方し語ものれとりをの是
うるかとるる

ものをとるへるるてハ二るた九分
すくはんみるいひるせる是
ものるをりるる公
ものをんてをるるをる有へ
をうるるるるいるるる

[illegible]

少方の説

毎月[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

神乃[illegible]

一 何郷至河

一 [illegible]

[illegible]

秘 ニモ世[illegible]

[illegible]

小方の[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 少方せ

[illegible]

物ゝもにつゝみあさきすゝなるべし
ゝる時ハつゝ[illegible]
翁ゝの[illegible]
いそゝ[illegible]ゝ年月ゝ[illegible]
ゝゝとゝ[illegible]ゝ[illegible]
くゝ[illegible]ゝ[illegible]
かハ我ゝゝ[illegible]
ゝも[illegible]
[illegible]けゝゝとく[illegible]

[illegible]ゝいてゝゝハ[illegible]
ゝ物ゝゝ[illegible]
ゝふけゝを
ゝゝの方へ[illegible]
ちいさき[illegible]
[illegible]ハ又別の[illegible]
ゝへゝゝ[illegible]
[illegible]へ[illegible]
ゝひなゝ[illegible]

源氏　花宴

舞ものがたりとなりて

やうしきさかしらして

男しるしるしき夫

なでうの人

夫人

きこえしりて

いまのあるじ家なるその人

のなかにちかのぬしをまつ侍佐人

く雪の物をまきちらすやうにて

ふかいにのりて

ゆくゆくはなかくハやうさてあるよ

ゆかりをもとめて

やはせ少方のかりをせてきて

の物をんしもあるへし夫

ぬしいハ

少方ゆかり

おなさ[illegible]この下[illegible]りつる火とりを
秘 池より引入[illegible]火とりさんあるを青和
みれひとりめしてハくなきしうく
てまつり[illegible]書[illegible]火とりのこと 空秘
何 あさ物れ[illegible]さ燒[illegible]すぬもとれしひ
とりをはさ[illegible]ら
世[illegible]を引
いけ[illegible]
秘 法驗こ

図書こモ

[illegible]の[illegible]
私云[illegible]はり[illegible]
[illegible]
秘 [illegible]
私云花鳥[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘 [illegible]

さるべきもうして

更路（何サキヤウニテ）　日本紀

心たらひとい

大将の名をいはれけのたまはせ

給へとつかまつる

大将の仰せ

よどいのこと

呼呼

よ一本しめ給へ

公

ものをれかわせまてうれひ

ありしきふらひのこと

秘

行者のこちらへ

かこう清めし

むろへ御わたり

らへはなし

たまとりえの須なり

きこすくり

本法（何）

風流ゆすゆりのもとゝりとゝり

（翁ノ）こゝろさゝへそゝみゝまゝ雪もちにたゝさり

えつるかゝしきけれ神

（公）雪ともは朋うらの巻ゝみきりゆゆひ

そうさゝつるハ共ゝりの庶とかゝまゝかゝ

りゝの夜ハこゝまゝまゝ心とゝゝへゝう意

（芳）雪りよ水東字張物ゝ

（枕）雪りよハ猪ゝてゝゝあり水東字張物

私云花ゝうゝ狂さゝつるハ共ゝりゝゝ

りゝこゝりゝ為ゝ山ゝ巻ゝりゝ及ゝゝさゝ

ゆゝ書云心ゝゝとゝてゝて物のゝゝゝ空に

みゝゝゝ心ゝゝありゝゝ

（河）後撰雪ゝゝゝてゝゝ女のゝゝみゝゝ

けゝ兼ゝ朝臣

りきゝゝて空ゝみゝゝゝゝゝ雪ゝ物

ゝゝゝ人のゝゝゝゝゝゝゝゝ

（メ）心さゝゝ空ゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ

さゝ山のゝゝりゝゝゝゝ

河一本ニ無之文法抄此二首あり前哉と
ほし合のみ
河ニ無シ 欠法りかとしきかな
図 風流也人の好術でありける
よう見とも何とも思ふされぬ事ふかく心ときめき
秘 東られとハ見えてハ何とも思ひ顔ハさ候と
とねハいとしと思ひの事
図 おもされかりの事しま候也
想ことねつされて

情かくかりのあさきとちねの心みかくりてお
もふさし
心のうちみて
秘 大ねれ候也
まうもの心くれ
此水方生ねを候のさくとくまれとも舞ふの
きりるれしハしそらかともてとりるれと
けりとさ
む 氣味こ甚くしきさ候也

はるかなるの事をもしらやすとまうされし
竹方はいろと物のをそろふのもりまゐて
大内の清蔵寺へ立ぬはしらせられ
あるべきなり
はるかなるの事をもしらやすとまうされ
さるべきまれさうせられくすの花鳥山羽田
沒はるかなるは合点しられて
そろへるうしろ
合点せすとまうせや

竹方うしろの事合点しられぬ
きかるべきまうせられくすは人はきな
ぬきかりかもしうされねをいな
私云河花は知港の間お遠あり秘ノ義有
ぬすくられかりなし
大きりれ者みるべてい(ぬ)
人をしんし
河堀老子経むしはうとむ
日ちりのそうるもねのくるきみをあ

されるなの所とそうん

秘 牡を火取みるせうと

私云 世方の心をとゞめけてあり

夫 前りをけり其の失やまよ珍あり

かくりあきされもてかしハ

秘 東三条乃殿

ゝゝのそうとゝもあうゝ

みいとゝいゝ

河 傍

かゝりの人

秘 大ねの白ゝむうてとゝにハさそもの

ゝゝみに物をもいひなれてをけりと云ふ

かゝけあきゝに

秘 ゝいハゝきけあさ事し前文此の浮ゝ図

む 世方此りの所ゝ世事とゝけ

ゝゝのゝ

私云 ゝ多ゝ我ゝ

臣 毎ゝ

ゝきゝと思ひさけハさ海ゝよくゝ物そ

しるらるゝ
桜 石の色合之
九 くゆり様ハそふし後悔しかる然ニ少方の
様をとられ之
然則同私云此并請物筆なし筆之うさ
ことをとハ少方の物なけの事をれとさ之
いとくしく石の心りしおるふみ也
先より一の厘ありいよし賦都此也
わりなれ

とのありち哉
少方の勢ひれ中ゆきひあるの事也然也
すゑとく先のえあるハいふ之
ありきんり
何 中間ハいふとこめも流石然之清又より二絆
の中間もいふ之
桜 ますゝへも少方へもよりつて二絆れ
中間あまいふかことよそりまし

一よりの色こそ
秘むそうれ方うかがへと
久しうより
むそうれ方みこ翰是れかきを
傳物をこそうく
私云 胃ハこちらこちらこいこと
しくらいよ色こ
あるまきこそすもつり
あうをへりつさ法くる物れきのいを
ちれ事をもいひいてこちら海きり
又いてこそハをさりまこ失なれ
所をそひこりう法へを
みりこりりみ世と
翰是のりる墨をかつ移り法かき
みこ物をて少方れあり へは
りつさ法なこ
こちりりを
翰の男女のこちこ

女ひとこゝろ十二三より
松ゑまきのしらゝとゝ人
ゝゝゝゝゝゝ
小方しまうんてせ
ちゝ文ゝゝゝひて
秘
ゝゝゝ文ゝ
さて九つゝりの
一文の文ゝ解是あゝりかけ
ハゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一
あれゝちゝおゝゝハ西日ゝゝゝ
ゝゝゝ
何
ゝゝ
ものゝゝゝん
又文九ゝ九ゝ文ゝりゝゝ
ゝゝかゝゝゝ九九
解是九小方ゝ
世中ゝゝゝゝゝ

少方のなんなりと
かくときこえ
れしかの人の手りなりらし
人のなりてむさ函
秘
氏とかて八塔也かくさ事もおろね
なきこと
人れかくさりなくてんを見ハて
ゝ又家の方立ちうり居一人介
一ゆのとおりかんと考ひてゝ今之
なりなと
侍せりとのきんこちら兵清殿ハ
れこ清殿或ゝ家人侍ゝ方代先事
むゝの考りなれ人
中将侍従氏ゝ補
兵清殿の会ゝ
ゝ五番ゝ仕せ同或ゝ家人ゝ氏
一勝ゝハ世代仕度勿論
ゝこちらひなぬこひず

山ねはたの家中をきまみて花ゐる
せうとうをみる
武門をうやまひすまし給ひしうはせん
うう
かうはをの
松
のこいをいろう
きりまうせ給ふ
山ゐ方武門をのかたにおそうまう
つきてうみ家内角うやいをめ

八退散すうと
さうまはきうちをき
かうおすきをはそのまきまてうをき
うすうと
田きうれひすう
山ゐ方をうちをひすていひうせう
ううはかうう
ゐ方我方のまをの
もかうをさう

何しおりともおり次男なてしかるへし
さ候らハうさしいかゝし
おひされしとして
子ころの事に
姫君ハともかくもかうかくとも
長様乃者之

河
山しられこまのみをのうきを流しけり
とあまりかくまりなの惜銭男なる　松若丸
あまこ者くらうえさし候

弁
輔王の方へ行かよひのまへしとに

松
又の内ことをえさすすに　是ニハ具し
なりのまに
男者達をつまてかくりめしハ中く(お)し
うるえしめしまさらひておりせよとに

吴
又のおかせむかし
門あまくとまり給之時の事をめの思ひ給ひ
我かくもん清存生の様をそこしれ
うしろてまてもおつめ婦かあんとに

かのやうなるみちの
（松）源の四方殿と天下人事ハ山二人ばかりと
なりふへしと
心ゝ奥さまゝりそとすうみたまて
（図）又ハまあるまゝとゝ云ひやうとひらめまし
てのけを
兎角此小方殿の男さらに立男みたく
なりまをといひてまてきてとひをと
ぬきなくなりひらをと

（図）おさなさんゝの様
（松）むかりうをを
仕古りの様ゝ婚姻を又ハ恵ゝ
継母のいひ
（式）いつまの物語しかる継母のもと子
とゝむまをゝ
奥さん
時にゝりひ人みたくハ
継母のいちかゝりをと

きりてかくれ給うて
夫
又子こいふ形らうと
世方の母いふ形りうまてるゝてあ
こたうりの事ものまは行されれ
おかたらかしと
私云わるかやうみ根ぬみ前まてさつ
ゆはといふを
かくまて所ありても
中くあのこれかてふなうり舞ふ代

男君達ともてなさしと
日もくれ雪うりめさ
おもしろあれるうさ海と
いうりおまけうる
月の吹おまひと
ゆめ君ハ爰いとうるしう
枝枝君ハ舞ふれもと
ふてまてハ
大ぬりいと海とそこくみ

いまゝもきこしめ
姫君はたゞのもとゝあるにうてかゝれ
ゝ名おとゝひのゝ
尋
又ゝいはもきこしてゝと
かゝ世ゝあるゝ
姫君の又たゞみ名おとゝむを
方のゝゝの
あゝいはもゝゝ
たゞを姫君の
かゝ言ゝ
秘
日はくれ
ゝ
私云小方の
ゝ
九
たゞはゝ
ゝ
ゝ日言ゝ
ゝ
私云第一終
みもきこうこさるもや
ゝはゝの方ゝいさき
ゝはゝみゝ
けみかゝひゝを
ゝ第二
ゝの方みおゝすゝさで
ゝいゝてゝおはゝ

つねりもてあそぶ人ありてのち
さすがにおもかるるを
姫君ものうしとのたまふ
檜皮色紙　紫はいとうきことにこそ
かるさ枝のなりもせぬ　姫君
とにもてなしなるもまことにかれ枝を
まれもとまるを　枕
あるれるかの弁　色うすき木枝の
枝枝　日本紙　模　木枝

まことさ枝にかはらぬ人いとうれたた
ぬるなりもまかれ
日ひあまりもひとき時ハ宮ものの
くれぬ色さ紙　花ものすまを
宮　かれもハ思いたもかめうり三海ふき
まきの枝を
枝ハ色のわくも思ひいるまめり
もはやりうり海ふり多り
てはうきもと

九 あれはいと心のおよすけたる所にて
ものとひそうもとこそのゝしはあるもの
きまはいりもしもれたるとこの
ゆうりうれいそうさこゝろあるや武ぶ
侍従殿之
ゝくの君
大ゐの宮女じもれ少方の女房中将君
の方をとらしかくふるゝ
中ゐ君 おさまれと石間のゝはいたくゝ宮もれ
ゝ君やうけるゝ人きき
秘 石間のゝはゆゝ
けるゝ色さ題と紙しせう 督
九 本上君はすくゝ宮りゝ宮けるゝ
ゝゝ
私云秘 石間のゝと本ゝ
本上ゝをきて立さ主君はいたくゝ宮
りゝ人きゝ少はけるゝ
かくてゝれもてゝ

本ニハさてみ月てせゆハ雪みた
さてくる
くもくと云まのの月すかきけ
む角くもゆとかれぬせを
秘 ゆれもゆとかしさうと
まとこ海りうろ角きかちのと
くるまてそかうんひけ
秘 文選別賦ゝ視 顔イ高イ 喬本放古星ゝと海り
きうすむ角をゆゝとうる

まてうかうんうや
私云河海ゝ川ゝ 視喬本古星詩北東
お永詩 江文通別賦
きうすむ角みはあて
秘 人ニくひかりうすへて思ハさると
図 ちかりを名ゆとかりゆゝみハくりさる
教命と遠うゝ宿名ゆりりそも
私云同命の未とかりてかゝ
ゆうハまちうかゝ

秘
芝より武士の侍まて出合ひてあまた
いかしりおもしろかり
秘
一宿嫁娶して後ハ夜又人あまたの色好み
おりまりしきこまかれくし
そ心れくく
秘
業上の継母之弄ちうさう人のうし
前しれ果あしみて奈り　秘
む
むつひ腹業上のはまし母
おかこさ也し

秘
源のすやせ　武母小弟也閲
むりしのあさかさしさ
可
敵史記　一人敵不足学亡万人敵
項羽本紀　仇史記呉し離日発日文選
恐日
又後漢書　賈復軽敵　論語距敵
此し学不及川
女侍りとしこしにあれ
む
冷泉院の女侍し武士の定丸次女乙まし小合

あり秋ぬ中夜みとそれ人ぶまとそや
秋ぬ中夜と八月させて或る夜代女房
をはをりまりかりの人ぶまと
はは中のうしろけ方
をまの時世をくかりて山夜者代も
ぶりり根之まの人ハみ根りな
すぬ而ぶ者雷鳴
頃ケへ者代ぶりしまと把人りて根
もうまと業上れ拾りと根拾りて世

ぶくかりこそぶまりきぶをと
ぶりのたまひ
根のぶをとひまと世人ぶりて
或ぶ代ひのまもひしと
世の人とひかしく
世間みまりひりれ人業
ぶりハさしぶりまりまりて
人ぶりをひ
業上を影りぶ者夜月みまりて

くてこの事もあさましきをいとゞ姉妹共
皆別れしをいかばかりとこそ
ほうりまゐらせあるらん
姉妹共皆別れ
ぬ
あるにしたがひ後世のさうしを
一人のゆうみひらき事もしてあれを
ゆえとうとうとうす
すゆるまこうつさをして
秘玉カワラノ舞ヲ奉ル事ハ
業上ノ道者トキコエノアル

むかうに九郎殿源をさしていと
をのまゝうつるいとはしたなきに
人々ゆさ有りつるまゝきをとてうせ
もてかつさうよハ
何
ゆしもあさ人をとうあハ長者をのうう
屋ようをかいとうる
おれを思ひあ山の長うしにはと
ゆうあをを人のうけさハ
れ云ハ川うう自之

元

河海抄いはく此ことばをうけて為朝
はかりの人のことわり則ちあり此為
ことあるをひろれば作り元八為朝
はかりの人とはまことに作りまやいとおろかの
なり之をもハ実説と為朝とを以通
武士の業絶一新云とのまゆりとも
独力とすとさすを心也 武勇をいとは
くとふより者りの人をとと
武をのまうる

元八源氏の武勇也

元元うまかくれうをけまれたれとも元ハ
ちて世をうををゆうとをいるや源氏
もさすらはれてハ人ありてさまれ
らるくいとおしくおもふ事也
乃年のりいとおしくこと元つ樂私トうり

図 舞是のりの業力をゆうすれトいと
又世ハ源の業をゆうすというの
私云ハうるの人ハ世をうるハ源の業
通のまをとうて作りの図書

松又云源の朝臣ゆきひらの
舞姫の像をうつす実法なる人とひとせて
聲のやうにつきそいをを
又私云なをまこうつ給へとハ源氏物語
の蜜通のまきせさせ給へ給へ
しハいとゝ紙墨ともれやうひんのうち
をもまてをきさ給へ中ハ西山さ釈の
きこしめしハ叶ハ給ハ
給へ給へ実しく給ハ
ぬ色ともをみを

もとみうりてもゆ中をもやり中
宣りかしまうハつるゆきこいと
氏物語
いそをつゝうぬこいひつきて
源のゆうゆうあきをひつきて
て文殊仏方のいと頃
文もあるこゝをみくや
或ハ文の間
ゆみをんつきゆきこ給ね

何

難せ

源の事を取つたのあてはまるこ
カ　ここさ人はそひたるさうなるこ
そうせしそはものせまけるさせそは
為我方の好うみそはあ先
源の行道は世人のとく謝けく色さ
人りもあ孫はりやり確執を事
そうそう細したるあ先れ之現は
そ色そうすあはやりみそうそ我方の

不幸なこと小方より射ーて文のそ
源り謝をつ事させと我方と早下
ていひさせそ　概　不幸　何事
つまもしてみるかのさ河さひーせむ
色ハうもーつあいと加こう
精文の親つまもりてとハ何とさやり
まて源の滴あ乃時の人は大のやり
り源て今我事うせみそれのの
かとをハさ色しみつまて若西とせる

[illegible]
(秘)博賀[illegible]
一[illegible]せもさうせ[illegible]
(も)武[illegible]文[illegible]の博賀紫上いとあこなる
乙女共にあり[illegible]
こゝろさうれいかく
又はものいかくとあり
(河)今生面目紫上の文武文の[illegible]賀
せうまこうりう[illegible]

(松)文[illegible]の[illegible]ハ六源流を[illegible]
てせうふ[illegible]さ[illegible]あるまつりをとけ[illegible]
さゝみてらけ[illegible]おこ[illegible]れうもとみせてう[illegible]
いよ〳〵くるゝもちて
(秘)小方心
まつ〳〵しきみてを
(園)おそろしきまつとうのろく
〳〵きまつりなる〳〵
こゝろさうれかくさるものなりけり

草の花に或る所に
悪 日本記

大ねんぶつをとなへて

舞曲

大ねのかの山方に文のやうにうりひたつ
手をやてのやうに
むらさきの方にてたねのやうに
うるはしきうりひのかりみなすべ
物乃花けり

大ねのむりこの事に文へひとりか
ら花事ハ仏合ね根祈うるとこ
ろしこハひとりたに
元亨日記ハひさうつよき仏にて
ゝみちにれる人のなて
山方ハ舞曲の
花りねを或る所に文のさしるとて
宮にくるくしうおハすると世ひて
むらちもあり人ゝいと世ひさに思ひみれて

私は常ハ重法文の奥りゝ[illegible]
ゝ方ゝハうゝもみけまハゝうゝもあ
るゆゝうゝすゝんと人ゝいゝおゝくてむ
うゝゝは物我をかゝりて文の内をゝ
見奉まゝとみえゝり
かゝの考みかゝあやしき
むうゝゝ
秘いゝまゝとゝて文の内方ゝまゝ行ゝ
秘はゝりさるゝをむうゝゝかゝり法ゝ

中ゝ心全ゝハ
又文のかゝゝまゝり法ハむうゝを選ゝ
ゝさゝんゝあゝゝハまゝたゝのひゝ
ゝゝ
さてかゝすゝふかゝうゝてゝ
解見のかゝゝおハすゝゝもかゝ角み
心ゝゝとゝするゝをとゝをゝまゝち
うゝさるゝゝいひゝゝゝゝゝこゝゝゝゝ
うゝ考ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ひとまとめ
をぐしうそひ
ゆのうへにそひつゝ稽古せ
かの文ゝをなをすん
文の法方へしひとり学ま
人のこゝろみうまとも
学ぶ事ハ
なれと
うちかのあさく

笠
文の法方へ行てとりてうとゝ私ハ
義経へ
式
法流ふるくさめて来りうとゝ
うきうへのれそやうきのかなの
さしぬさ
うへのきぬハ袍へ河青鈍指貫花田色
松
あをとひのうのさしぬさキトハ縫ゝとり
物ゝ
辛
同うれきのさしぬさ也縫ハ代図ハ

織ものしぬきいいう柳うの時一月より
風流九時月ふる指奥こ
柳のトうねね
同志ハすたしまとすとこ紅下紅製の色はけれ
りうねまや若下かうねの又時節
みうりやや猫ハ十一月より若申すう
や柳ハ春そハ柳と号と春ハ印也
又日ぬ
うしハみけうんと

乞
あやうハみ〳〵むうりんとしよ仕たる
なりとなりうみ初山義不宜
秘
むうりみうあてと紙〳〵と
かんの若ハ〳〵墨筆ともとさ〳〵結みまても
同
かうう寺ともとハ毎の年九月の又義
うう〳〵かうりうハ毎月ハむうりれ
りハけうう〳〵ましあみみとの当ハや
りみ家出ふりりかやうりうりと心
ふかくうりうれ年〳〵して毎

是の川てらひろうもまりもとをかあと
をみうしきこしかしてて
或るを人あうて舞まれなる方とりさ
ゆせ心
まつのり
秘
大ねれ清方
もくの若かと
主若たねの宮女
あまりさ海

是の方へ向り行く時の海
をあ若れ山あり海中行てをりくれん
しのうと
秘
男さきて高丈程の所をを行
さてもの人みく海
これより舞是所ひすとをけく間又
元の中を
秘
よの人みをとハ物ものまへうの
ぬきとハ物行をを恵み行へうを

私 数年物のきに[illegible]ひをとれるなり
そのひとつを其[illegible]をとるなり
[illegible]
いとおもしろきもの人は
私 公[illegible]なる[illegible]人はいまてたち
[illegible]
毎月のごとく
私 実法[illegible]人は[illegible]
[illegible]かのごとしこれ

図 北方
[illegible]の人[illegible]孫はとてもかてもいろ人
しはいと[illegible]
おさ[illegible]人[illegible]
男女若[illegible]服あり

藤中納[illegible] 月十八日トミ
次郎君 月十八日トミ
真木柱君
母宣旨[illegible]の方よ[illegible]
又母[illegible]の方の方よ
[illegible]
[illegible]

かのまさ[illegible]

同
姉君のよろしきさの様乃前のよし之
年ことおさなけれハいまゝ子紀のよしめ之
こらすなり
箱豆乃後より文之へおゆすりの間の返之
秘
多いめんし給返しもあいさ
大ねの少方乃返之 弄
何ことも叶りうつ心の今ハしめてうつ給
みてあらそ
是ハ武る文の親之
同
文の心之

大ねの返乃今さしるすりてもなきさ之 弄
年りう主給之へろもと之少方ハおひ給ゑい
おまても文のりくさしへ給へり之
いとひらしき
同
少方のおしうりまれ大ねの目に新みえん
もとし物のもれまし
いさあやまとりなり
父母のいさあ給之 弄
私とりりとハ草子乃地

いとまなくしきぶ地をしゝ分る
花はひけまれたゝるの図
松たゝるの初し図
おもうしろまきくしきくもゝ分れたるのたゝる
山みちあるくあるまゝ
秘
ゝたゝたゝいたの池ゆりたゝ
をしきこゝしてもも
大ゝるのゝゝみのゝ分ゝもゝ文ゝ清ゝ
ろゝあゝ

ヒハゝゝゝゝゝゝゝみ
みたゝるのゝゝてゝゝゝての分図
ゝゝさゝり有ゝゝゝの人ゝゝゝてゝゝて
かゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ分ゝ
弄
大将のゝゝをゝゝゝゝゝゝ風ゝゝゝ分定て
ゝゝゝゝ
今ゝゝ堪ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ清
見ゝゝ定ゝて清ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
風ゝゝみ清定ゝゝ分ゝて人ゝゝゝゝゝゝ進

退とも定め給へ
おもりひさしきを
るとて音無をつまて
たるのを別へ
姫君をとて
私まさのをとこ所のあるとし人
おとこ君をとりすを
後み苑中納言
つきの君ハやりて
後みたる大弁とりて
姫君ハ
高麗
まさ
と云
あこ
河
寺
少方
あり

式部多く対面のありたるうへ大将の
まうし
風ぜうしてためらいゆるかて
家の内風氣としてちゐるうへ対面をこと
多めらいハうへ
くたくらうたり
つねみうしみをこと以外ちゐるあり
ゆり出
きの者くらをハ事よのせて

まうし右二人のうへ一ぜ三人うち
六条殿ハえめておりをねと
侍カ
六條殿むうのおハすう方ハ
とつまこていハ
四二人をハをこさまうへ毎日一度
きてみおま
大将の袖
うちうめていと
二人のまうをハまうしたりあと

て舞是ハ西方へおハすをとく
とゝ様と母君ハ
なうなれハおさなき人の
かゝへあそれ
物ゝひくそゝ
舞是ハ中心
女君の御さ海の
松
もゝゝや
ひゞゝしきさ海

なの小方へ
ゝりとあさあ
むゝのかゝあり海のゝ
て姫君の是ゝ
さゝも四ひゝ
ゝゝ
舞是りの小方へかゝ
松
ゝゝゝゝ
あゝりゝゝ

[illegible]て其後八者伝もあるとき
或日文ちゐみそかそらあめしらし
[illegible]しみしてこれをたりのまゝ後み
[illegible]
[illegible]
或日文
五のうへ
秘
業上
業上てはまとりもちゐと大小方れ

[illegible]
秘
[illegible]のきし
源
[illegible]
花群茶[illegible]
[illegible]
秘
実又[illegible]
[illegible]
内裏[illegible]の合[illegible]

おもハしき人なし
無かりし義なりともえし
河 恐 ひうふルし
實無かりし道も亡かけし人し
さらぬとも思ひ出るかな
蓋乃無かりし義ハおもひ出の如く出て
ちハ飛へこさ人とみなされハ源の御味
略なりぬ事をなけるなき
その人のならひハ志の如くしおもて
かれなき物なれと志の如くにつきつれ
しなん志なるの語
秘
志実なき事ハつねにハかくれなき事也
私蓋無かりしも其の味略なき事をなも
なる語し思ても尋き事ハ尋ね志を
おなれハさのし跡来にとへ三りまも
なし自然りおもへしもいふし
式
深くもなしとは人の中ハかくれなきおなり
まは我一人のなかれて志ねをなきなし

さらぬ実父ある人なれハ比中宮を尋
り八武ろ実ゐもきてあきら絶行
なく源氏のとりハあるましき也
たくふへきのさたなれハ
ましてほかよりまいりのまれあるを道
く思ひのまゝゆくへしハよし舞ひと数ふ
しとゝて物思ひのまゝさ侍也
これまいり給へと
内侍のかくれよろしひゆるみ御手給ふ

さ侍らんをきこえてつかさと
大臣かもひ給ゆへ女よろしかたとた
うちゝみなく
なあへハ無礼之秘
私なれとあるハ無礼心ありと詳難有之
人ともおかおる
源氏実父の内大臣ともよろしかぬ
まして思ひ給へし也
数やなれ人とものこゝろ人ハなそやハある也

尚侍　廣女　右大臣豊成室

尚侍　淑子　中納言長良女左大臣冬室

私尚侍八歳みあり　書　室

例なりしこと

うかりてまいらせ

源氏卅八年の年也　年

西宮之尚侍新任之後詣殿陣令奏慶

賀之田　諸司車追之　堅固陪女下仕假所　内侍一人

出来傳奏人　書司一人相副　給禄　女装束一襲入

女官等也　散位等也

中宮御内に者付内侍令落度賀有贈物

今案内侍のうしはりよハめひ

とのゝ涙まてまいりて内侍一人市達て

ものうりと奏ゆゝしめれかるゝ房

の裝束をあらうゑ退出すのこと

如法の心勞の也　若ハ居て内ゝ之

きゝまてそこゝやうてんのうゝ出てを

れつゝのうゝ之　年

如ことなりうけ　ハ

松見物がてらに

男踏歌の事 初子の事そうあり

かくしの事くゐもちこの方ゐ

源氏に四方拝に はちゐは舞まと

宰相中将の物語に

松夕霧に

ひとりのきんゐもち

物すると

紫香殿(しかうでん)の色んうまして

松紫震殿のうち物語に仁寿殿のうち

物語の後に 夫 舞まのうちとれる

多取

みしみ文の女御

冷泉院女御 或ハ弘文女 母宰相上に同じ

南代の女御或ハ弘文の女御に

紫香殿のうちまて東西北半分

公事ハ北いりうちの女御おこなはた

ちまて

私云舞子ハ[illegible]と義香殿の女房也
此時玄文の母儀牛蒡院の女房と此時
義香殿[illegible]
[illegible]
此文の女房ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]舞子ハ[illegible]の[illegible]と一服[illegible]
此[illegible]ハ義香殿のめぐりを[illegible]
方の[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の[illegible]

[illegible]
秘 [illegible]ハ
[illegible]ハ[illegible]
[illegible]
[illegible]
秘 [illegible]代ハ[illegible]
[illegible]
私云[illegible]
[illegible]

中文弘徽殿

秘 中宮は秋ぬ　弘徽殿は八月たちの女　はなれ

女御は或る子の時女　兼香殿の西の方

女御

たちの大臣の女御

図 竹川のたちの

秘 約束はなれ　はなれのたち　紅梅はなれの男

まてゝ〳〵人こ

系図云

私 たちの　女御

みゆきしりまさ　たりけりて　冷泉院

御位の時の女御のたちは　人なり

まさ　たりしゐ

中納言　宰相の　はなれ　あるなり

私 はなれ　不我系図

さて人まうさぬ

ものう里ゐたつ狂さうな女房のうち
物ゑうりもし主人をあて事りけ
りよし

基文の女房もいとしさやふ
桜 花やうくやめ多うる
舞蓮院の女房 舞是光妹 基文乃母
俤し事

文くまくらく
基文しまくらく

あひかめうく四しし事

私云基文の女房ハ義香後ゑれ者ま
義香後ハ右大弁妹のゆりうして玉鬘
の侍為と云うと行ふうせ侍る但
此女房ハ義香後とハおもいと成な見
しハ基文の出方りめのくおりして基文の
女房ちゆくゑ西ゆ文の侍とゑ
後ハ或ゆ四文光侍義香後乃西ゆりて
ゆ多今侍ゆ文ゑ乃東ゆりてよ鬘

乃ち所あまたハしてめぐりそりの色て
なるゝみ佛心のうちハくるゝ色てゝ
かゝくあまてらを世界ゆへきて
佛まつ中文の佛ゝ
佛門のれ前ゝ中文ハ秋ゆゑ
雄蓮院
花のみてゝ
六條院みハ世ゝひ面をしてゝ
河ゝ
ゝきハうゝりゝ
私荷ゝ略する

有ゝりみ心
竹川
略ゝ
略ゝ荷略ゝ
ゝちのたゝのくゝうんゝちハ心人
四方氏の長四人生ゝ
ゝゝゝゝる八郎ゝゝみハむゝひゝゝて
寺内方氏の中ゝ
面内家ゝあるゝゝ
ゝむゝひゝゝ面服ゝハ
ゝゝゝのゝゝゝ
ゝ内方氏長ゝ
松
ゝハゝゝ面服
ゝゝ

(ヒ)殺仕の方(ソトヽ)の未子し世八う年より四月
大ねぬ大郎きうと
(松)むうの継子し
(松)まへ十そうまて後母しうはうし
(ヒ)解置ちねの嫡子母八或ひ之乃侍女上
り十そうりうり母こ若うらと以歌也
ら百人とこ行ねく
(松)いまこむうのうえ人うとこ
四方の八郎若八むうの弟し梅三

乃方郎若八まうしてうれこ
人とうきうらひうれう
四すこうひうう女侍乃花乃ひう
こ海めてまうと毛うと むうの花と
ほあていうこ
おの侍つねね
むうの侍つねし
ひうこうも女房ううも乃四すこ
こてまうこ八すぐい

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同云ふまでの間侍のかくまそもちこの
つき毎ちうしうの尚侍の方をもはるる
やうの間りう六條院みハはひ二世
しうくふさ行とあり斟酌ほのぬる
ん一部若男踏歌排手の事を処定
まりとかりの初張ハとりも生間を
ぬりをとあるあるみかきをせり尚
侍のかうもをれしをせありて排手庵
をはるの

松
大殿の直廬へ
まうでまの間の有みはりりうとひ
て毎日まとに禁中のものの所をみはりき
はりうるうん清らわつうなん全まるぬ
せのまりとと

松

むらさきの行ゑ
むらさきの舞ぶとはきこひ行ゆゑみち
さし四さとるとしてこそ心いそこそ
しとあやうくこそ
はるかなり
むらさきのうちはらくうあひなる
さまぬくてそ
おもしぬの心あはれ
たしなる殿合之心あはれ

まさまさこそ人くるまよ此事なれハ
さらるれゆるされて
なるこそ大将ハつとこひ之
松之はるの年あやまりおもハ源氏
まさしの むらさきの事なれ
し 冷泉院ハ
さらに行てはいとゆるされて退出
あまて作出と人くのゆ
あまりとぐ

河蓮

ものつくりと
人の手ぶりを毎のつくりごと
さりとてきこしめし物を
たねの外
さしもさかりみハ中宮めさりつるをも
たねのそひをけるを
さしもみるかりね世ゝ
河拾遺
せりはしの若の人をもとりそやすの

かのくさのきん弁
私ハなは弁を
ちらかしきて
毎の神ゝ
五つ〻〻
宮ゝ
陽成院あそび
諸奇のはなあしらや
こゝのはつゝ

[illegible]

新[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いや年と四拍子揃ふ事
又ふるうさきを面白
ゆかしらハ海うの
のやうに山ゆきとひり
けんとハ人ゝ
あらうらうあり
らすの年紀こ形容とかそひと
ゝあり其元を
冷(私)
冷ハれかゝちの
てさるう源氏の
かゝ人ハ
源氏(弁)のこゝ
人ゝ
かの源氏(も)人ハ
源氏の山寺を
うのとハ源(必)ハ
ゝりさて
こまはゝとう

はるとへ文つかはす事ハなを
そこもとの仰せ中
はやくまいりたひとの
秘文はそれなりたるあり
なひきのつまを恨の給ふを
はてをとこかさねの
かなのしらくもをき
ふをとてかくしてか
もとつの仰せ

あやしうおもふあさ
秘新定之
もしひるもはやひしき
何位三位加階を 秘 みつ三位ハ叙すべ
ありを
并
もとつ位三位しるす
かいのうしの慶賀申
私云文はのうしもなして加階し給
ふもありをもの事あやまりを

[illegible]

一本すゝせ　第もゝ[illegible]のつまるく

みゝ[illegible]

[illegible]

むろのくせて　前ゝ作[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くゝ[illegible]

紫（可方）いろい[illegible]物かゝ（ほうぐわ）[illegible]

あひ　こやれ

紫（長）[illegible]

[illegible]藤の[illegible]

[illegible]（秋文常）

[illegible]（おれ）[illegible]

[illegible]

[illegible]（延元）

繼（公）殿察式[illegible]深紫綾一疋　紫至木行

[illegible]二石帛一疋紫草木行[illegible]一石八斗

今集紫ハあてそめしはの
さてくいあひかてさとハいとり
秘
きさちきりと
すゝ如くとゝ公ハ三位み剱ものをゝ
私云川ゑハ　紫ハくゝすゝ如てゝ
陽物ゝ見ゝ　紫ハ
ゝ如くゝ足ゝ　紫の衣
角ゝゆゝゝ公川角ゝ
さてゝゝゝゝゝゝ延喜の御衣間ゝ
ゝゝゝゝゝゝ

秘
うすさちきりと
さてゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
川ゑゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ冷のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
たゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
源氏ものゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
秘
ゝゝ陽ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と世にてかくはかなき事を人の
源氏みな上のあるひはあるうちにも
てのみれてをうしてを世ひとへて
はいつくとなき
をつてのらもあるてらかみの上
なりや
世のはとまさにこそ

いうるむみとまてあひさきとなりてこ
そ人はあけき
なるの方もあるこの昇進は半せ
三位はまをとりあり
三位より上の人をみかゆみが落
をよりうへ
なりてはとはみうへ対そまり
このうちとのとの
西をもの人思ひ

むろの詞

秘 白波も一度とまるものしるべとて
うらゝとして

みるとて

そのいはより

秘 勅宮づ

いはりはいとうてし曲めるまつさと

鶴はれ神はなりぬ（きはゝ）

うまれ色さんあるはとりきる白りくるん

松 ぬ人（うきうせてきてくさと）

尋 人しぬ鶴をとしりうせやとて

松 ぬるをみるさてみるる人のいとと

りとぬとしりぬとりといさせ

てくりうくやとて

まる人やたりうりれハ

みて冷りまい実ぬるうと行さ海のあ

松云うれ色さんとハ鶴のまくくとうの今
りとぬとりぬとの行かたいりやのまりと
鶴の色をまいりりとりとくさ
みさと行らうと白とくるんのとりとくさ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちのくにせのうらと翁長門守
とおくうつさ
長門守ふきれハ
元閑心
いそきまちしり行
退出のまをいそきまつ
松
私云いそきぬ〻めくるいと我の袖
あまりいそきてあいそ申ふきい
如斯うつ〻し

うつ〻にあらぬきき
此人ゆへ多時直ふたひてりと
よろこ
ようぬまも出来のうたりたる
こゝゆ
私也つ〻の句みちのくのあたりてい
ゆ〻のまもいてきてうたとうつ〻
みものとうふの退出しきたりて
ふく〻松ノ義あやまり
まりてきせ給ふさ

[illegible]の退出のうへ[illegible]
まいり申す[illegible]公[illegible]
[illegible]
同[illegible]合て退出のうへ[illegible]申を
[illegible]
今久しく[illegible]作あり[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
秘
勅諚
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

政長みもすそ川にてうちかけられ候文

へうのかすかすなりみけるかの

乃其文のおりうりうち花の西の巻に

あそびあるとききぬをひしせてらみ

ゆせうそまつれとてひるみうちつけ侍り

平宣文

せうせわうそ祢ふのうかきハいち

り花きりしー名ぬるのん

也

うけてゆてゆれ花ゆりきんさくめさ

翼地りぬるぬ我ハまれは

秘

をうえてをうめ給へり物をとこ平貞

文ゆ河海りえてうり

平貞文せうせうそ祢ふとー

ちめりさうぬ花ゆん

ちめりれかからぬ人ゆりもむ

ちゆゆの人を侍ー侍ハ花とは

ぬへりりゆ花ゆりめりを

あらうゑみちくまうりを一とはれ給み
かくまして参すのうへ
参ゐ給りあされくるみ
とうらつひみ山のうちをあるさ
まむ事はあさきをつゑとしし
はあらうゑ一て給ちうりて退
出させ給ふ
参つ事ふて
懐 ナツクルこと

前りゐ給うしてはかう給ふ回遊
かうまうり
かゐうみをうちゐをかうまうり
まうりの四ふ給を
れはれとすものをとあれ
寿 みしのゐ給みれを
松 主上のゐ給こと筆ロ参つの色
私云みしのゐ給ふやうちうりて
先退出させ給ふのかうけ

男を見知りて心ちはあはれ
なりかつけをさてうちあはせ
ことゝ心のあるあをとおもすとゝ以心
但事之み業みもうつの心はせる其
業をうはゝ此みとのはあへしらとうて
まて出うつの世ゝみかうきをゝ
さてれはまとハ貞文う立ゝ
女のあるゝ心うむうつのうてれ
をれと世ゝとゝ以ふゝや世ゝ変之世文

業を業するみ昔の定文う女の世ゝハ
うや定文と世ゝ世ゝて後の事うれハ
れハまうつうあうこれハ輪廻
つれれハ有ゝのうハみとのあらせ
してとうまゝきまゝかれハうれハ
まて心をて世ゝとゝうの輪
世ゝうゝを以うゝや世ゝ

清てくだきまゐせて

秘 門内のうしろ迄出く舞

何 西宮記云 輦親王大臣中老高人有此

恩女親王女院高倚毎出入作閑門者

こゝろゝゝゝの

秘 源内大臣の人道なり

えもゝゝゝゝゝゝゝゝれ出

ゝゝゝ迄のけふまてみて還幸なり

かゝいとこゝひ

何 近衛大将なれはゝゝて作まゐ給

奥あり

秘 清大将をいりて西のゝきに向

幸 ゝ乗大将みゝまゐり

五上冷 九重みゝまゐて八橋に向てかゝりも

みちひこゝゝや

只今迄おありて八言上ハゝゝゝ

[illegible]

私

かすみ[illegible]ハ難波の事をとゝ行
[illegible]りかやりみ[illegible]ひ[illegible]くもりてハ又
こまかなる[illegible]ハ[illegible]
かゝくりゝ[illegible]
しるかぎ事[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

何

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年むかへつゝ
松
春こそはしとゝうるみてのはるか
と梅はるかゝてみきハみとりなり
とゝ見をなをつゝとゝいとをとられつゝ
ゆゝ初しられるこゝ此ぎ一ゝ松
いてゝきこゆ
松
今約束ハいろなりなりて作かゝ
ゆゝ
又ハいろゝてゝゆゝえとかゝひ給りんを
年すや
いとかゝをゝ
みとのおりめゝやゝうゝ海とゝのの
見初てかゝゝけるしとゝ
色もゝ
かゝりハ風ハしいそよもれえゝ三ゝ
角もゝひゝゝ
ゝゝの竹ゝ年すゝゝ三
まいゝて行ゝゝ以前のゝゝ
三ゝひゝゝ白ひいゝゝ風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大くらのかみより
又ゆきまはうをを
殺仕ゆきと
ぎしきあるやうに
俄しり何の儀式もなきと又四方に
なくなすまくきれもこまなるみりた
ゆきをしこいたしさはらけてもいはは
そひかりて大ゆるみたてくれまと
もしりたていうぬ

何
不進退 松

源の頼光と又四方のまくはゆ
なるみいなくきれいもうもと名なを
進て行命をうくとの事
六条ものそいとのゆりなくいかおしと
源ハ出りまれぬはれかあれハ此家を
くに舞のもくまを一段ないなる事
せともさものをはかくきなくて
女もまを命もまりり

可 やとるかがりをいと

可 すゑのあまの苫やの煙風をいとみ

なびくこゝろはたゆたひそたきり

秘 やとるかがりみるひとの心 川方千鳥

のあまの

舞曲をやとるこゝろ

なすこゝろもていとこゝろきりと

幸 たゆの心 同

秘 たゆの心 義口伝 そのこゝ

私云 たゆの心人をなすこゝろ

此一て心のもちゆるゝこゝ親とみなり

かゝり入なせ給ふりしこと

れ なのけ半こと

みゝの 冷 もゝれ物つゝ

行角一半と舞曲のゆゝこゝ

ゝきみゝゝとこゝきをむゝ

くゝゝたゝ

あゝくみゝ

かゝ

秘

武蔵国　幸れ

さてたまり

武蔵のくに　先ハ難波のうらにて

やうりあへさせひ事と　なりれと

かさねて　つまゝ　ハ　ゆ　ゆ　ゆ

かゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

秘

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

大原

源氏

さてもつまあさ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

くさ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

さと　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

秘

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]の事とのたまひてはおぼ
めめしき事を悔しく思ひすま
させたまいしものをうつのまもれて
かかりみかりも宿世なるものなれ
うつ源のあもり心のとうもり我
うつゝと思ひ給へさうて
大ぬのやうやうなりけるなき
秘 ちぬハこゝぞくしまて和しうかゝるさ
うるきたりふまとも

大ぬのなりてもやりいるもなき
人をうゆしりたりまうゆきえを
をえをとりぬ
ぬいうりうりてもやうは
永日長ぬのけ方むうの方ゝうて
つまうしもうまあまをいて
みを遣りうまゝ
りハ之ゝを
右をみまひてつうはさうあるなり

ちをさうたちていいくとゐまもえうさ
てをおくねとこ
角ゆかりをぱ
ゆみうまもせうまもとうさをみせ
源かきこまこてれしけきはのまゐりぬるはと
人といふみまのやや
源氏の中をとひろせと
松さうも源をはまひをあきこと
私云ハあるハ古人とハ源の殺方とき
してよしのをいふみまやはをと
ハまやみまをすやいふみまの宮殿
つまくみをてをそうぬうう
源の文の紙つまくりよやきれて一
しかをうまのまうまをいるぬ
つまくりをうてゆみをうまをいり
いてうきこをうんと
松ゆうきこゆをうんと
ゆみまのひてうせうてまうれハ

源の又とものあそびとて武蔵へ
右をりんせうそまろ
うるうて
むうりの狂
狂ゆうまうしわりはりかみ
むうりの代ゆめ源のりうあはうも
そひやうるくこ
まうりうこひやいてうこてまろんなと
はうのおりぬやて

源むの夢やのふうう実又ふ孫ハ
立ちやいてうこてまろんをてハ又の
おりあとこ
意にいてうハたいあもあんと
源の又りいてうきこゆんとあよ
りてかむのうこ
ときむうかりう
源たりまま
ゆんもうせおりぬ

秘 右を〻 図

右をハほのもきんきりいろりけるまま
うんとハ

右をハ源のゆりみれ行もきき
を〻〻 白〻

并 右をも実右をとさうさ
ゆうゆうやハらら

色半 をうされをハ不書けんを行
かく〻ひうきうを

色むう
かうすはのうろうを初めれてうあ
かく〻人をうのくさうあや

何ウタカタ 未必 日ケ年紙 或ウウメヘ 遊仙窟 字多我多
うるれそみくしてふせうをうを久
しきを年をうをけうも

百年
あもさうひうふあう我うくかうをを
うれうけてゆをかすあや

百年
鶯のうきう〻山吹うくうをうをれ
ぬむうう〻をやも

四川ゆうれいのうたあるのうらかた
なんりあるそきし物や　伊勢
定家流云うらかたとハ三名月辛を
つゝる紙のやうにみやもひうの事をさす
てハいりてなといふりさまをひろこと
みてうきうらんをいふりみうこうを
六字ゆつきてありと云流ハみくえ
うりて三りふりみのしやゆ流とみてゆ字
の図ハ此ゆ法ゆしあるりことハやしく

うきかしのうりとしやくしくとある河
ゆんうこうこ流人といきむゆりうる也
ゆ上俳五物ゆみしゆりゆ流云うこかこハ
うこてとしゆんをそれとゆれうこ流ハ
ゆうこ一流云うこゆうきこんをうゆ流ハ
水原物　新古義　ゆ物ひ川うこかこ流のきしうり
むすゆ物りハゆ水こかし　釈物

此道祖師自是洞色

俳　葉物し義芳年之百人　故俳　それをみこてう

ものゝ暫時と雲の立る山吹うゝ
うゝ見し時と
（秘）
うゝかゝる歌さ為ゝ河海みれりしを
し共時の色ゝ
私云は等閑ハ文字ハ毎
とり見ふなりうゝかゝハ辛と字也心
りゝ竹ゝ字辛と書やうや人ゝを
書あとゝ以ゝ底書ゝかゝびと濁を
ゝ以時の色ゝ也ゝ竹ゝ書ゝ濁ゝ

同志りゝ心時時の心ゝハ志ゝの
人と書のゝさゝめやと以書

犯物ゝ此ハ書ゝとゝ
かゝりゝゝ竹ゝ
ゝゝ書ゝ
（可）
書ゝ書ゝゝゝゝゝゝゝゝ
あゝとゝゝの竹ゝ
此歌ゝ及ゝゝ

いなづまのかさかし

何 茶 尚書 礼 キヤ 日本紀 やまとめ 秘 敬

をさひろまてものの

何 面白まぬ彩の玉の数さて立ちさ

ものまうこころ和

ちれ物未せさもむかむかしも

おもしろ海

秘 彩のつはものあり所ちれハ面白ち

ささ海

風書ハ川のうり秘ハ川の秘法

人もみくうもてあ

源我ちうしんれてハいてとれ

ちなと

かりはのうしんれ若を

私 朧月夜に春世のまもとの人の朧

我も円行のくもりもちも円行のくもの

せいりかと

牛 雀流れ石の

弘徽殿の女御産み給へる

さしのぞきたまふ事なれば

朧月夜の中はなれ

いまさらはつれなき物思ひなる

えぬまの月

今むかしの事は時々あらぬ事にて

しるし

ありずそあれるもの

たしあるまじきものやうにぞ

あまたゝびあり

といふ人はなほやむごとなく

源のもれたまへるかたは

しなのまさりたまへる人はなほ

さまざまにつけて

いまは何かはとて

自今後は何事

うけたまはりつまりやう

むかしの恋しさとのたまふ

さまつ[illegible]

秘 [illegible]

[illegible]

源のひさなり

[illegible]

むろのさとひさし 祈文[illegible]

あつまのさとをそぐ[illegible]

半志多加戸加毛佐戸支井留波良乃

伊介乃也多万毛波万 祢奈加利曽比

毛須加祢也万祢奈加利曽也風俗上野

和琴五拍子みハかぐ[illegible]

かさみ[illegible]

[illegible]

の中[illegible]

風俗上野 [illegible]

[illegible]

秘 [illegible]

今別に朱点をのみ此

不審 [illegible]

[illegible]

只今ひきくらべてを又必ず（ちがひ）
と合めかをあるべき事之

後漢杜詩傳　將師（しやうし）　和睦（うまじ）　士辛鳧

藻（さう）　匠　言觀悅如鳧戲水藻とあり此

をもつて人をもつて　辛　花牛郭人之

或

後漢杜詩傳壁下死吾十有三年將

ゝ此況めし後漢書ゟ鳧（カモ）藻觀收を

此ゟ引ひきとられかりも鳧と玉藻

乃ゟ引ゟ引ゟ引ゟ人之

さひきく人ゟ引ゟ人せゟ引ハ

源氏の只今れ祈を玉鬱の足ゟ引ゟな

ひきゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ

源のさ為傳ゟ引ゟ引ゟ引ゟ

ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ

清門（冷）も玉鬱のかゟ引ゟをゟ引ゟ引ゟ

ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ引ゟ

みちてこひわたるきみをあふ
もるみれはいかゝとい海一首小
我し
松
川瀬河こゝ退ものゆきをとれ所く
きりとこ
清とくさ
みとあるもうれ川のをとつねのゆく
ちをさひめしるみとこ
清みこいはまのひしくゝ

みと冷とむうゝへのみ
あをうきゝ
文つゝ人のゆきハ山ゝの中ゝこ
ともやゝみ髪ものぬつきゝ
きゝみこひてくゝやゝの文ゝ
ひなりゝうゝぬ解ゝ風流ゝ
ゝゝゝゝゝゝ
れかのゝゝかゝゝ
松
源や

弁

源氏のはなをはなとも　みやめさくこ
ふしのまきうつ
先ゆくひかりて
えれぬと
ちうつのまを源のとひ出ぬ
玉のはまをとうちをて
西のたいへうりの
吳竹のませをわさうをうえかれ
山ふきのまはりうつ

多りこうををかと
河方
かうしかは多りぬ衣はかりのれとなん
うえたてるうつなうり
宗祇
はかりの多りを衣をそめしりいそ
なり物をとして井
松
河海りひきは四方拍の方おけを入須
右今　四ともうをいて山吹の多
ま衣をとをてしきあ須人和山弁可
ぬをもうをハ山吹の多ハ花しり

弁
續古今の哥をひもとり
図
六位の哥と記せり
源
ゆもとすみ井のうの中みちを色づいて
そこなる山ふきさけるかな
むろゝとされかと俄ふる雨くもみぢ
むらは源のうゝてこひ行うゝ
されもさやりもみぢの色さかもまれ
八山吹の文りつまてそこなるもよろし
まゝ中みちハむろゝの中

河方
法師り義かう　河　中法

山ゆきをやしうゝてハみちとしなれ
ハなをすす色しそもまれし　和泉或了
源
おちちきゝこひこそ中きつれとも
ゆやかその山ふきのもの
大かゝむ鬱上のやうゝかゝち山源
のむりこひうゝらゝ雨
ゆりむろゝの文のきぬくりめ
くりゝおゝ山男れかそゝと山

[illegible]
山さのされこ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
河内
いとあはまをけこ[illegible]
[illegible]山吹の花

水原抄云 北指況奇心を用前乃山吹
花乃ふかみみてこひしそ毎てまてる思
葉之北山吹之奇有牛 [illegible] 集云
[illegible]
みてまて[illegible]
松
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

を山吹とよみ侍る事は四季類字
源語抄に八重咲の山吹の花のかゝれるを
みて山吹の花のかゝれるをよみてこいろを
万葉集花ゆゑや万葉八
たゝまとの物へのかゝれるけるみてい
そはれるよりて
此歌八家持の坂上大嬢に遣しる歌也
見八叶て遣ハ給人なきの花をまて
もかゝて身山吹のゆゑみてとい花
いく世経ぬ八秋ハ花とい所を昔人
ゆゑ見しかの花一ぞ八面白くこれきて
給れかの花ハ岩花とまりかの歌
よみしくみ侍り
かくまでもてなしたるかしこれ事八
ゆゑの者ふくるれてをゝ一ふる花
源氏の花とをよまるのまと減よか
きくるれ身ゆゑ事八今をと

私云 時間いとうとかりてくるれ
ぬるとハ 年月一所ゝ公中さ侍
らんつまとてくるれてきく
みまとして侍りしかりやや
しかしひ侍りて公中さぬ人とも
あてゐ所うかみ川くれ
まとうとう芸験云宗の人ゝ
侍りまとくく立つく侍りさ
とゐとてみうりまとにも物ひも

きにあやしき侍公のとうひうりや
関 芦まち
松 夫つくゝみ出て時いとそまつん
とのぬまてありしみ侍ひうとと
私見ハ芦まの池之ぬ中さえうう
しけハさかとしみハみうれ侍てにあひ

と申すとりあげくハあやまくか
ふけんなるて評しあるべし

かりのまれいとあかりあるを
板
鳥の子 図
河
鶉子 雲雀 鶺鴒 鶉子 事多是かりの子
ともいとり
あ鶉子とあるもとりの子ハお
やとり鳥さるとゆハあのこと

是ハ人のまてさて独ん此源氏ハかりの
こかりのこまて二やうのなかりハ只
かりの子なるとも如何と鶉ハ
うりかのあ張ハあて実をさ鶉くの事
おもひひけてうひの四ハ命をうる鳥の
子ハ先ハやとりてかてさるん
鳥の子とかさつけやりもとさ鶉の
けくるおれうる
同云鶉の子事くさいもをとりと云ハ

かりのようにもあり野のようにもあるこゝろいとをかし

一和りかりくさ言葉世と言ふ国と野のようとかりのこゝろもかりのみちいつる野のようと似せてこゝろ草ようなるこゝろ

とあり此手れ一つなるこゝろ

黄ムノ此行中ニ付紙アリ

清水こゝハおもりくもなくうるおえて

すゝきに

源の又乃風流めるあゝ

おもうれさ月日

私 みれ詞

此公日りのゝハ

おもり清水をうるゝしらさ異

もうぬらしをハ別さてうるとゝれし

を手みてうつ井ておくてハ射面あり

もしき手よしやめさてかさのようと

源

おなしすみかにひとりのみねるいろの
人のひめこそはんん
かすり巣をうみみねまをとりて
枕 れうをかすりて巣をみみぬ事
とあり
多八月一巣入みてぬ也ぬの一たて
ぬ也
源のまう方みとて同一巣をなりひ
しみかやりみあれいろうる人なみ

きうそやと
あるやさをかしやうう
けうを教まうまのたうひうをとやや
きうきいうう
私かとうさ人れ物みかうんと
心やうさあう人いうる人なみ
きうんといみかけていり人みと
きうとうみてうわをとを
きなうう

大ねんてんまいして
源の四文字を舞ひみる道
女はまことにあやの
詩云女子有行遠父母兄弟と以道
実文さいさん女はさいるさ物とたるの実
法乃ち法りの法なり
まりこの法はあるの
源をさしていは
みくてきく行

舞はこの源氏物語をもとの
みてそこと
はかりこれはえ
もろくのやすかたくこと
まろさこしむとて
ちるのうさ道
かくりいこや
をまをとちるのうさ
らいくそこと

匂兵部卿宮
をくれて枝ゝもあるぬかりのさとゝ
みるはとりゝ〳〵さ
ゝ
ゝ
かくれてゝあまたゝありちねの玉鬘
みかゝりてゝ
ゝ
ゝ
て細ゝ源氏の宮へもまいせま
らねるゝやうゝみゝあり
秘
ゝとりをくれて枝ゝてあるかか
きはゝとゝあるかゝ源氏ハ枝ゝ
らねゝ細ゝ源氏へまいせ給ふも
あきゝゝ

ゝかゝ源氏ハきみ井ゝゝさて
秘
源みかゝこゝゝ
たゝゝ
ゝかゝ源氏きゝハ井をゝを

大ねんかうてうを又源氏事ども何
とてもやさしくもをうの心りをあ
ゆよりも私のうかねみたるの
おとろきて只すれくしやとなる事
みうさかしをうの頭とあるを
うぬゆきうみやとうきてハみれ頭
りハ何とも

私云源のみの頭おをうをの月日も
さうりのうと思ひすうれもてをせ
ひうみきこのゆもはれりみのハ
うきうとあるハ大ねのうをうしく
なてをすうの源ハはふこの頭うれ
をとうかのはもうをとりれを
大ねれをうをうみかうてはとうを
りさうとてはをすとうをハをうく
やとうをうみの頭とうを

義不審

こゝろゐのかゝふるもしと

源の頼政

（松）はしゝをとゝきゝ侍るハかゝることゝ

心のゝちみハかゝらしゝ毎

源の仲みハ翁の頃しゝとかゝいひ

ゝうとゝめゝしゝとおゝもゝ

かのゝとゝ少方ハ

ゐゐのゝ書式ゝゝ文の侍也

ゝゝゝかゝしゝまゝて

ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝ并

物のゝもゝゝゝみおゝひのゝひゝゝ

ゐゐ侍ハゝゝゝの

少方ハゝゝゝゝゝゝゝゝ

此姫君中のあはれをみんとうちあはれ
別しての事よし
うとさ伊勢のうちうち
松 まさ木かえの
此文をかきもしゆうう
舞 運歌うたふ文をみよ恨うらみ
連てうしゆの命こうまりあれハ
まさ木の君又ちうり命をおくんまも
ふりゆくかたをうらめしう

此君うち
前よりあり二人せうまさ木の事
かんの君のはあり
舞 ちうの点兄弟わかうまを
明くれはうきまを
まうのなりさ海をいと
うう山しう
舞 まさ木の
まさ木君君もうのあうりを

たくさんの
[illegible]
男さうらの御しるしとて
いろ〳〵
あやしうみちこ女みつけて
松
第子地こ
男ゝ[illegible]ハみて蛍宮源氏ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]の方大将殿
花ざかりこと年してかくれもうゆく

み物をなん人こ
そのうしれたまひ月
源氏ハ八歳の一十月やむうう舞ゝ
男子誕生年ゝ
あり十一月ハ年を先ゝたまうこ
松
男子誕生ゝ光ハ十月ハ末の年ゝ
えいひ出てゝ此年ハ秋ゝその年
あり関日

地巻ハ源氏三十八歳の十一月ゝて
の年をかけうゝ義なり地ゝ思ハ妹の夕の年ゝはけ

ていけもやうの物ゝ
妹の名なども記さる

それなりのありさまはいそすも
誕生れ時の様子也別ちあのあるひかり
つさきのまのさまをとりて
又はしも
弁
内府の事

とのはうそうりう
自然ようさやうの宮世と玉鬘
の事をとりて内府のそうを
まさかつさきの光ちかも
ちろ八月ちれまさかつさきの
弘徽殿をうしみ
弁
ちろをを内府ちれ母ちかも
以ちるをうのかんの君を
指ちや

[illegible]

六條院の[illegible]

[illegible]

[illegible]

松 四位のうへ八必ずしも文中みさだめ八侍
あまたは也 辛
松 なし
かいしのうへ八藏みつうへ年八ふるを
そりまとも四(年)りまつ八まつ
さてもうゑ(き)
かやうもあるへ(うへ年とく年)
かいしのうへ八うへ
松 をは考へ

文殊うしう
をは考へ如色し
はしのいまは
四度八別禁をもうゑ
秋のゆのたりのり
図 光八ゝ前の年をそひいて後みかき
ありとみる
私案之は巻源氏ハ八歳の秋をてせい海
面八法物ものやまもり共ふ十一月み

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いしまふきたにみてゝ

をはぎとゝ川いきんとまる人をめゝこてゝ

あぬるさきや

秘 河 立奥ゝ 幸 日後半ゝ

山ちんゑまきのまゝ人

秘 夕霧ゝ

をはぎのこれをゝといひてゝ

ゝいとさくやゝまて

さゝしあさやゝみけゝゝ

をはぎ

おゝろみゝ

ゝんこゝりをゝ河よ

みるあゝかゝやゝこゝさゝゝゝ

ゝをゝよあゝのつゝみ

をはぎのゝ夕霧みゝゝけみゝゝ

雲井屋のゝをゝ

かゝすはゝれゝおゝ

さゝさゝゝんゝわゝ

みゝゝおゝろみゝ

井原の年いまさらとうてこ
ゑかゝしこ小舟こさかてり出しをやあ
かりやゆ
何
ちりはまたなくしこ小松こさうて遠
人をやこゝろこゝ海人
夕霧乃雲井九原をのこひとり紛へ
あかりやといまそれをせいた
や
私云古今の詞をそゝとまそ一句
なれしなのゝまいひまりはよりゝ見ハ歌一首
を三句まていてるハ三句くみ花見みを
しゝ白ゝうゝ
こ乃浦かゝとみハかゝようふ和歌
弁
ハ女浦のゆ方まてハかゝ毎人ハ思ひよう
ぬゝとゝ
夕霧の白ゝハ女浦の浦方ゝハかゝ
ゝゝかゝ人ハゝまゝきゝをさてハ山
ゝ見ゝをハ出ゝうゝ人ゝゝと推し給

色々雪

[illegible]

かゝみ坂[illegible]

夕霧[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

図

あまり川きりあるを称とも

武

清流茶屋地　夕雪の[illegible]たゆの[illegible]

ゆてうきり西口[illegible]

かゝさとき[illegible]

花鳥山清門の[illegible]を尚侍[illegible]

さらぶらと爲すや但一ケ年に付銀ト受り
申す
もみ米と共に
地代
銀ちもみ米の分ト受り
以上一式抄 奥物之